該齒ノ近心根端ニアル小指頭大ノ囊腫ヲ除去ス。續イテ第三大臼齒ノ頰側部並ビニ其ノ遠心面ニ相當セル粘膜ノ切開ヲ行ヒ骨膜ト共ニ頰側ニ剝離シ上ヲ覆ヘル部分及ビ頰側一部ノ骨ヲ鑿除シ第二大臼齒トノ齒槽中隔ノ骨ヲ除去シ該埋伏齒ヲ拔去シ充分ナル搔把ノ後拔齒窩ニ「ヨードホルムガーゼ、タンボン」ヲナシ手術ヲ終ル。

以後「タンボン」交換ヲナス事數週ニシテ全ク治癒セリ。

結論、本臨牀例ハ左側第三大臼齒ノ難生ヨリ來リテ第二大臼齒ノ齒根囊腫ニ炎症ガ波及セシヤ或ハ第二大臼齒ノ囊腫ノ炎症ガタマタ該部後方ニアリタル埋伏智齒ノ炎症ヲ誘發セシヤ何レナルカ不明ナルモ兎モ角、共ニ炎症々狀ヲ起シ然カモ可成激シキ疼痛、牙關緊急ヲ呈セルモノナリ。

聊カ稀有ナル臨牀例ト考ヘ報告スルモノナリ。

縫成金冠調製時ニ於ケル鑲用金銀ト 齒周測徑線トノ關係ニ就キテ

九州齒科醫專門學校附屬醫院(院長沖野博士)

美 川 孝 之

Das Verhältnis zwischen den Goldplatte für Kronenringe und den Messungsdraht der Wurzelstumpfes bei der Herstellung des genahten Goldkrone.

Aus der Kyushu Zahnärztlichen Hochschule zu Fukuoka, Japan

(Vorstand: Prof. Okino).

Von

Dr. Takayuki Mikawa

補綴學專攻者ニシテ殊ニ金冠繼續調製時ニ於テ帶環ノ邊緣ヲ形成セラレタ所ノ支臺齒ニ如何ニシテ緊密ニ適合セシムルカハ、當該齒牙ノ保存上即チソノ支持組織ニ對シテ重大ナ意義ヲ有スルモノデアツテ輕々シク取扱フ可キ問題ニ非ザル事ヲ痛感スルモノナリ。

然ラバ如何ニシテ支臺齒ト金冠ノ邊緣トノ適合ヲ緊密ナラシムルカ。

- 1、支臺齒形成ノ理想的ナル事
- 2、測徑ノ確實ナル事
- 3、測徑線ト帶環トヲヨク合致セシムル事

以上三點ヲ基準トシテ環ヲ作成シ、之＝鑲ノ形成ヲ行フベキデアル。

余ハ第三ノ點、即チ測徑線ト鑲用金鈸トノ關係＝就キテ所見ヲ述ベシ。

却説、帶鑲調製時＝齒周測徑線ヲ切り取レル環用金鈸上ノ如何ナル位置、如何ナル状態＝於イテ合致セシムルカハ夫＝依ツテ作成サレシ鑲ノ齒頸部＝テノ適合ノ良否＝大ナル影響ヲ及ボスモノナリ。

一般＝帶鑲調製時＝使用スル金鈸ノ形態＝概ネ四種ヲ擧ゲル。即チ短形鈸、扇形鈸、一邊傾斜及ビ兩邊傾斜ノ梯形鈸トス。

短形鈸及ビ扇形鈸＝關シテハソノ構造簡單且ツ測徑線トノ關係ガ頗ル容易＝理解シ得ルヲ以テ今更詳述スルヲ要セズト思フ。從ツテコ、マデハ主トシテ一邊傾斜及ビ兩邊傾斜ノ梯形鈸＝就キテ述ベシ。

兩邊傾斜セル梯形鈸

即チ、咬合縁及ビ齒頸縁(上縁及ビ下縁)ハ互ニ平行ナ長方形鈸ヲ上縁＝向ツテ擴ガル如キ平行ナラザル二直縁デ切除セルモノデ、本形態鈸＝於イテハ、支臺齒ノ測徑部＝相當セル測徑線ノ本鈸上＝表示スル位置ハ、傾斜セル兩邊ノ延長＝ヨリ求メラレル點ヲ中心トセル圓ノ圓周ノ一部分即チ圓弧ヲ形成スルモノナリ。從ツテソノ弧狀ヲナセル線トソノ金鈸ノ下縁トノ中間ノ部分ハ支臺齒ノ測徑セル部分ヨリ齒根ノ方＝位スルコト、ナル。故＝本形態鈸ヲ環狀トシ支臺齒＝適合スル場合ハ之等ノ點ヲ考慮シテ鈸ヲ入レ環ヲ形成スベキデアル。又ソノ爲＝所要ノ測徑線ノ長サト金鈸下縁トノ關係及ビ所要ノ高徑＝對スル金鈸ノ高サトノ關係ハ他ノ形態ノ鈸(殊ニ矩形鈸)＝於ケルモノト著シク趣ヲ異ニスルモノナリ。

之等ノ關係＝就キテノ圖解並ビ＝ソノ數量的關係ヲ理論的＝考察スレバ次ノ如シ。(第一圖參照)

本圖ニテ表示セル如ク、上縁ノ擴ガレル梯形鈸ナル限り＝於イテ常＝金鈸ノ下縁ハ齒周測徑線ヨリ短ク、又鑲用金鈸ノ高徑ハ所要ノモノヨリ長クスベシ。之等ノ正確ナ關係凡ソノ公式＝示セル如シ。之＝測徑線ノ長サ及ビ傾斜セル兩邊ノ傾斜角度ヲ代入スレバソノ場合ノ夫々必要ナ金鈸ノ下縁ノ長サ及ビ金鈸ノ高サヲ算出シ得ベシ。

而シテ一般＝ソノ角度ノ増加＝比例シテ測徑線ヲ基準トセバ、金鈸下縁ノ長サハ減少シ、金鈸高徑ト所要高徑トノ差ハ増加スルヲ見ルモノナリ。

一邊傾斜セル梯形鈸

即チ、長方形鈸＝於イテ一邊ノミ下縁(齒頸縁)＝對シ鈍角＝交ルモノナリ。本形態ノモノニ於イテハ帶環ノ形狀ハソノ接際部ノ接合状態＝ヨリ種々差異ヲ生ズルモノデアルガ、通常ニハソノ下縁ノ兩端ヲ一致セシムルモノトシテ考究ショウ。コノ場合＝於イテハ次ノ圖ニテ理解シ得ル如クソノ平行ナラザル兩邊ノ延長ノナス角度ト同様ノ角度ヲ有スル兩邊傾斜梯形鈸ト殆ン

第一圖

- a 金銀下縁ノ長サ
b 金銀高徑ト所要帶鑲高徑ノ差
l 測徑線ノ長サ (即チ弧ノ長サ)
A 傾斜セル兩邊ニヨリナル角度
○ 圓周率

$$a = \frac{360 l}{A \pi} \sin \frac{A}{2}$$

$$b = \frac{180 l}{A \pi} - \frac{180 l}{A \pi} \cos \frac{A}{2}$$

以上ノ公式ヲ用ヒテ基準トシ(値ヲ100トシ)
計算シタル例ヲ擧グレバ次ノ如シ

A°	a	b
0°	100.00	0.00
5°	99.96	1.09
10°	99.87	2.19
15°	99.71	3.28
20°	99.50	4.34
25°	99.24	5.35
30°	98.87	6.48
35°	98.44	7.58
40°	97.98	8.64
45°	97.44	9.69

小數第三位以下四捨五入

テ既述ノ缺點ヲ冒シテ用フル要ナシト惟フ。

ド同様ノモノトシテ取扱イ得ル。タゞコノ場合ニ
テハソノ接際部ノ接合ヲ行ハントスル時ニ、理論
的ニハ、立體的ニ直線ヲナサズ幾分彎曲セル接合
線ヲ呈スベキモノナリ (即チソノ鑲ヲ圓錐體ノ一
部ト想像セバ接合線ハソノ母線ニ一致セズ) 夫故
ニコノ事ハ鑲着時ノ完全ナ接合ニ困難ヲ與フルモ
ノニシテ、本形態鑲ノ缺點トナスベシ。

以上梯形鑲ニ就キテ各種述べ來レドモ、スベテ
齒牙ノ長軸ニ對シテ鑲ノ軸(圓錐體ノ軸)ヲ一致セ
シムルト云フ原則ヲ基礎トシテ考究セルモノニシ
テ他ノ場合例ヘバー一方ノ隣接齒間ノミ特ニ著シキ
恢復ヲ要スル爲ニ鑲ノ軸ヲ傾斜セシムル如キ場合
ニ關スルモノハ更ニ別個ノ考察ヲ要スルモノナリ
既述ノ諸事項ヲ總括セバ次ノ如シ。

1、環用金銀ニ於ケル齒周測徑線ノ適用ハ矩形
鑲、扇形鑲以外ニテハ下縁ノ長サニ一致セズ又必
要ナ高サハ金銀ノ高サト等シカラザルモノナリ。

2、而シテ夫等相互間ノ關係ハ前述ノ如キモ臨

床的ニハ支臺齒ノ形態

金銀ノ展延性、ソノ他

種々ノ操作ニヨリテ

様ナラズ。然シ夫等ヲ

考慮シ以ツテ參考トス

ルニ足ラン。

3、一邊傾斜セル梯

形鑲ハ何等特殊ノ價值

ハ兩邊傾斜鑲ニ比シテ

認メラレズ、從ツテ敢

第二圖